

開催年月日

令和2年12月2日(水)

質問者

日本共産党 菊地 葉子 議員

答弁者

知事 鈴木 直道

保健福祉部長 三瓶 徹

質問内容	答弁内容
<p>一 新型コロナウイルス感染症対策等について (一) 医療提供体制等について これまで知事に対して医療崩壊を防ぐため、検査・保護・隔離を徹底するための体制の維持・強化を求めてきました。一部のコロナ対応病院では外来診療を停止するところもあり、宿泊療養施設の早急な確保、病院スタッフの確保支援など、医療崩壊を徹底的に抑止するための取り組みが必要と考えますが道の認識と、どう対応されるのか伺います。</p> <p>再一 (二) これまでの道の対応について 道として感染症対策に取り組んでいたにも関わらず、感染爆発は起きてしまいました。感染症の拡大予測について知事は記者会見で、想像を上回るスピードであったと発言していますが、ステージ2に移行せざるを得ない段階で、次のステージが目前に迫っていることは認識していなかったのですか。 これまで、わが会派が求めてきた、医療・高齢者施設を対象とした社会的検査に加え、感染集積地域における在勤・在住者など幅広い関係者への面的検査を実施するなどの対応を検討してこなかったのか、伺います。</p>	<p>【保健福祉部長】 医療機関への支援についてであります。道内の医療機関では、今般の感染拡大に伴い、新規入院患者数の増加や院内感染による医師・看護師等医療従事者の感染など診療体制の確保に影響が及んでいるほか、感染の長期化により医療従事者の皆様には、身体的、精神的にも大変なご負担をおかけしていると認識しているところでございます。 こうした中、道内の感染状況は大変厳しさを増してございまして、道といたしましては、対応の長期化も見据えながら、今後とも各地域において必要な医療を提供できるよう、全国知事会や北海道看護協会などの関係機関を通じた看護職員の派遣に加えまして、支援が必要な医療機関への医療チームや感染管理の専門家の派遣など、現場のニーズに応じた迅速かつ的確な対策を講じるとともに、3次医療圏単位で軽症者や無症状者を受け入れる宿泊療養施設の整備を着実に進めながら、医療機関がその機能を維持していけるよう支援してまいります。</p> <p>【知事】 警戒ステージの移行などについてであります。道では、札幌市を中心に感染者が増えてきた10月下旬、感染拡大を抑え込んでいくためには、道民の皆様にも基本的な感染防止対策を改めて徹底いただくことが重要であるとの認識の下、警戒ステージを2に引き上げ、特措法に基づき、感染リスクを回避する行動の実践を要請するとともに、会見などを通じこれ以上、感染が拡大していった場合には、より強い措置を講じざるを得ないことや、そうした事態を回避するためにも、集中対策期間の取組の徹底が重要であることをお伝えしてきたところであります。 また、道では、重症化のリスクの高い方の多い医療施設や高齢者施設等に対しては、積極的な検査が必要と考えていることから、集団感染が疑われるような事案が発生した場合には、全ての入所・入院者や職員の方々について、症状の有無に関わらず、PCR検査などを実施するとともに、高齢者施設等が自らの判断で実費で検査を実施する場合の国の交付金を活用した補助制度について、周知を図ってきたところであります。</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>再々ー (二) これまでの道の対応について 道内の感染が爆発的に広がる中で、医療・高齢者施設だけではなく、学校においても感染による学級閉鎖や学校閉鎖が相次いでいます。感染を抑え込むためには、感染追跡の業務を担う人員の確保等の支援を国に要請する必要があります。そのうえで、感染が起きた近辺に限定せず、発生した地域における在勤・在住者など幅広い関係者への面的検査の実行を決断し、道民の命を守る最大限の手立てを打つべきではありませんか、伺います。</p> <p>(二) これまでの道の対応について 感染者数が爆発的に増加し、11月7日にステージ3を宣言して、道民・事業者に対し、行動変容や時短営業の要請を行うまでの間、議会議論を踏まえ、感染拡大防止対策をどのように行ってきたのか伺います。</p>	<p>【知事】 医療施設や高齢者施設等に対するPCR検査についてであります。道では、集団感染が疑われるような事案が発生をした場合には、全ての入所・入院者や職員について、症状の有無に関わらず、PCR検査等を実施してきておりまして、今後とも、感染の状況を踏まえながら、検査対象をさらに拡大するなど、柔軟に対応することにより、より一層、感染拡大防止対策を進めていく考えであります。</p> <p>【保健福祉部長】 感染拡大防止に向けた取組についてでございますが、9月から10月にかけて、感染者の年代別では30代以下が7割を占めるなど、若者の感染者増加の傾向を踏まえ、こうした世代への集中的な呼びかけが必要との認識の下、大学や専門学校の協力をいただきながら、学生一人一人に向けた感染予防に対する注意喚起文書の発出や若年層に向けたSNSによる感染拡大防止リレーメッセージの実施に加え、人が多く集まる街中でのチラシ配布や大型ビジョンの放映更には来道者に対する、空港や交通機関、観光、宿泊施設での積極的な呼びかけなど、感染予防のための行動の実践について、機会あるごとに、様々な広報ツールを活用しながら、普及啓発の強化に努めてきたところでございます。</p> <p>また、札幌市を中心とした10月以降の感染拡大の現状やそれまでの議会議論などを踏まえつつ、札幌市と連携・協働し、一般相談窓口の体制強化をはじめ、発熱患者に係る診療体制の整備、感染拡大地域における重点的なPCR検査の実施など、相談・診療・検査体制のより一層の整備促進を図ってきたところでございます。</p> <p>さらに、道としては、10月28日のステージ2へ移行した際には、これまで以上に感染拡大防止を図る観点から、感染者の発生状況や、その行動歴等を踏まえ、飲酒を伴う場面などにおける感染リスクを回避する行動の実践など、特措法に基づいて、道民の皆様への行動変容を促す要請の措置を実施してきたところでございます。</p>